

フィリピン金採掘事業について

このプロジェクトは高橋五郎著「天皇の金塊」(学習研究社刊)で明らかになった旧日本軍の指揮により埋蔵された純金約300トン以上をフィリピン政府承認の下で行う発掘作業で、第二次世界大戦末期(1945年6月1日)フィリピン国内175か所に分散して埋められたうちの1か所です。既に周知の事実となっている金塊を発掘するのにかかる作業関係諸費用の協力金募集です。

発掘された金塊は100%セントラルバンクによって買い上げられることが決まっています。フィリピン政府は70%を接收し、残り30%を地主、発掘作業関係者で分配する合意ができています。

当現場は元日本軍人の寺井少尉により200名以上の犠牲者を出しながら隠匿されてきたもので、発掘作業指揮者は生前3度寺井氏にお会いして隠匿された経緯から発掘の際の注意、指導を受け、8年前から地主の了解、協力のもとで極秘に発掘を進めていたものです。しかし、地下60メートルほどを掘り進めていくうちに政府の知るところとなり、ある日突然政府軍のヘリコプターによりその存在が暴露されるところとなり、1週間後には大統領直轄のCIDG(警察、軍隊)の現場調査が入り、現場は封鎖されてしまいました。TV局にも取材され、テレビニュースで全国に放送されてしまい、有名な現場となってしまいました。

現場作業者は突然のことに驚きながら一度は断念し現場を離れました。

しかし、あれから3年経った昨年2月、政府側から連絡が入り、「山下法」という法律ができたので、法律にのっとった形で発掘するならばよろしいということになり、上記の条件のもとで改めて今回の発掘再開となりました。

金相場は日々変動しますが、約300トンの市場価格を想像してください。関係者、資金協力者に十分な果実が得られることが明白な事案です。

皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。